東京鐵骨と私

松　岡　　亮　一

私が東京鐵骨に入社したのは、昭和 28 年 4 月ことでした。
九州大学土木工学科を卒業した私は、鷹部屋先生の紹介で、東京鐵骨の技術部長をしておられた尾崎義一さんを頼りに入社しました。
尾崎さんは私にとっては大学の先輩にあたる方で、戦前は東京市の土木課長を務められ、鋼橋設計も経験しておられた方です。戦前の土木構造物は各官庁の土木技術者が自ら設計し、施工監督もするというのが普通だったようです。
当時の東京鐵骨には若手の土木の大卒は、昭和 26 年卒の佐川さん(九大)と本間さん(早稲田)の 2 人がおられるだけでした。戦後から間のないこの時分の橋梁の発注先は各府県庁が主で、まだ設計コンサルタントも存在せず、橋梁業者が設計をして製作する時代でした。
発注官庁が橋梁製作会社をいくつか指名して、競争設計をさせて発注するという方法がとられていました。このような状況だったので、当時の遠藤孝之社長が戦後浪人生活をしておられた尾崎さんをスカウトされたのです。
東京鐵骨の橋梁設計スタッフは上記の 26 年卒の 2 人の他には、28 年卒入社の菅原（北大・土木）と黒田（早稲田・建築）と私の 5 人だけでした。
最初に仕事をしていた場所は芝浦の木造本社の中の何処だったかはよく覚えていませんが、私たちが昼食を食べていた建物の隣に新しく 2 階建ての建物が出来てからは、その 2 階が我々の職場となりました（なお、建物の 1 階部分は風呂場になっていました)。
残業するのが当たり前で、8 時 15 分から 16 時 15 分までの定時勤務が終わると、残業開始までの 15 分の休憩時間に夕食を済ませては 19 時まで残業をするという毎日でした。土・日も下宿に帰るのが面倒で会社に泊まり込むことが多く、月に 200 時間以上もの残業をしたこともありましたし、当時は宿直室があったので交代で宿直もしていました。
宿直すると夕食 50 円・朝食 30 円の食券が支給され、その食券で道路の反対側にあった港食堂で食事をすることが出来ました。
所帯持ちの社員が宿直当番のときには、食券をもらって宿直を交代して喜ばれたものです。
競争設計がたまると残業が増え、土・日には下宿に帰るための時間がもったいなくて会社の宿直室に転がり込んで寝るという生活をしていました。
同期の菅原・黒田と私は下宿を東横線の学芸大学駅近くに会社が用意してくれていたので、残業か終わると田町駅前の「のみたや」という飲み屋で 1 杯 50 円の日本酒 2 杯と 1 皿 50 円のおかずで 3 人分 450 円を支払い、それから国電で渋谷へ行き、どぶ川のそばにあった沖縄料理店「はなぞめ」でミミガー（豚の耳）の酢の物 1 人前 50 円をおかずに 1 杯 50 円の泡盛 2 杯ずつを飲んで帰る毎日でした。

昭和 29 年 4 月には小沢（早稲田・土木卒）が入社しました。小沢には美味しいカレーを作る特技があり、日曜日には午前中で早退して「はなぞめ」でカレーを作ってもらい、会社帰りにみんなで「はなぞめ」に寄って夕食を食べたのも楽しい思い出です。
昭和 31 年には印鑰（北大・土木）、一力（東北大・土木）、前田（東大・土木）姫田（阪大・土木）、新井（日大・土木）、飯塚（山梨工高・土木）の 6 名が入社しました。
新井・飯塚の両名は、入社後まもなく退社してしまい、現在の消息はわかりません。

当時から東京鐵骨には労働組合があり、各職場から代議員が選出され、組合業務をしていました。私は昭和 31 年に設計部の代議員に選出され、副委員長を経て、昭和 33 年 8 月から昭和 36 年 3 月まで委員長を務め、後任を飯塚素弘さんに託しました。

それ以降、私は昭和 36 年 8 月に生産部工務課長に就任し、昭和 40 年 3 月からは技術部に戻って鋼橋の設計を担当し、昭和 42 年 2 月に工事部次長に就任、昭和 52 年 6 月に退任するまでの長きにわたって東京鐵骨には大変お世話になりました。

※以下の写真は、印鑰烜氏から提供していただいたものです。

（昭和 31 年の設計部の全員集合写真①　後列左から 3 人目が松岡亮一氏）

（昭和 31 年の設計部の全員集合写真②　後列左から 4 人目が松岡亮一氏）

（昭和 31 年の設計部の全員集合写真③　束の間の休息　後列左から 2 人目が松岡亮一氏）

昭和 31 年　社内旅行（伊豆大島）時の写真

昭和 31 年　バレーボール部(第 1 回鉄労協東京協議会 文化体育会で優勝時の写真)
前列右端が松岡亮一氏